

朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】

基礎調査から

《時代潮流》外部環境

- ①人口減少と高齢化の進行
- ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展
- ③子ども・子育て支援の充実と教育の新たな展開
- ④人生100年時代の到来とQOL(生活の質)の重視
- ⑤社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)と多様性(ダイバーシティ)の尊重
- ⑥自然災害等に対する安全・安心意識の高まり
- ⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展
- ⑧DX(デジタル・トランスフォーメーション)の進展

《主要統計指標》内部環境

- ・本市は自然増・社会増であるが、増加幅は縮小傾向
- ・25~39歳の有配偶率、合計特殊出生率が高い
- ・高齢化は緩やかで、人口構造が最も若い都市の一つ
- ・昼夜間人口比率、自市内従業割合は低い
- ・ベッドタウンの性格が強く、就労の場としての拠点性低
- ・相対的に見て高い所得水準にある市民が多い
- ・医療提供基盤はやや弱い、健康寿命は長い
- ・硬直化が見られているが、財政状況は比較的良好

《まちづくりの主要課題～時代潮流と統計指標から～》

- (1) **人口増加傾向を可能な限り維持するとともに、いざれ訪れる人口減少局面に備える必要がある**
 - ・人口増加を支えてきた自然増が失われつつある中、社会増も転出入均衡に近づき、人口維持が重要
- (2) **社会変革の進展を好機と捉え、移住・定住や、企業立地を促していく必要がある**
 - ・オンライン化の進展を背景に、移住・定住や企業立地を促し、『住まい、働く場』としての拠点性を高める
- (3) **「子育てがしやすいまち」を実感できるように子育て支援と教育の充実が必要である**
 - ・移住・定住の促進のためにも、子育て支援の充実による魅力向上と教育環境が重要
- (4) **豊かで安全・安心な、「朝霞のライフスタイル」の魅力向上に向けた取組が重要である**
 - ・健康寿命の延伸、社会参画促進、持続可能で安全安心な環境づくり
- (5) **デジタルを活用した効率的・効果的な行政運営と、健全な財政運営が重要である**

市民等意識調査から

■市民意識調査

- ・将来の市の望ましいイメージは「安全・安心」が最多、次いで「便利」「快適」「居心地がよい」
- ・将来の市のキャッチフレーズは「安全・安心」「住みやすい」「緑・自然」が多い
- ・今後特に注力すべき分野は「安全・安心」「医療・保健」「子育て・教育」が多い
- ・未来に生かしたい強みは「都心への利便性」が最多、ほかに「交通利便性」「武蔵野の自然」「彩夏祭などイベント」

■転入・転出意識調査

- ・転入の理由は、「通勤・通学に便利」「住宅環境」「交通利便性」
- ・転出の理由は、「就職・転勤・転職」

■青少年アンケート

- ・将来の市の望ましいイメージは「安全・安心」「便利」「快適」「居心地がよい」
- ・今後のまちづくりの方向性は「安全・安心」が最多、次いで「子育て・教育」「買い物等を楽しめる」が多い
- ・未来に生かしたい強みは「都心への近接性」「彩夏祭などイベント」「交通利便性」
- ・朝霞市の自慢や残したいものは、彩夏祭などイベント、交通便、自然や農産物
- ・朝霞市長だったとしたら、遊び場や公園を増やす、朝霞をもっとPRする

■子育て・定住調査

- ・子どもを生み育てやすくするには「経済的支援」が最多、次いで「保育サービス」「子どもの居場所づくり」「教育環境」が重要
- ・朝霞市での子育てでよかった点は「自然の豊かさ」
- ・朝霞市での子育ての改善点は「道路通行の安全」
- ・転入理由は「通勤・通学に便利」

■小中学生の意見聴取

- ・自然豊か、東京に近い、彩夏祭、イベントが多く楽しいところが好き
- ・大人になったら、家族や友人と買い物や食事、公園で遊ぶ、自然と触れ合おうなどして過ごしたい

【キーワード】

人口の自然増・社会増
人口構造の若さ
移住・定住促進
産み育てやすい環境
教育・学習環境
暮らしの場、働く場
朝霞のライフスタイル
健康、持続可能な社会
デジタル活用

安全・安心、便利
快適、居心地がよい
緑や公園が多い
買い物や食事を楽しむ
彩夏祭などのイベントが多い
都会かつ田舎
多様なつながり
誰もが住みやすい
魅力発信・PR

- ・新鮮でおいしい野菜、地産地消
- ・彩夏祭やイルミネーションなど祭りやイベントが多い、シンボルロードがきれい
- ・転入超過で若い世代が増えている
- ・静かでゆったりしている、都会過ぎず田舎過ぎない

《朝霞市の改善が必要などころ》

- ・道幅が狭く安心して歩けない、坂道の移動が困難
- ・わくわく号の本数やルートの見直し
- ・小中学校や公共施設の老朽化、駅周辺以外が暗い
- ・教育に力を入れる、学童保育や子どもの居場所づくり
- ・球技など自由にできる場所が少ない
- ・商店街の活気、買い物や食事をしたくなる店がない
- ・地域の関係性が希薄、世代間交流がない
- ・全国的に認知度が低い、朝霞と言えばコレがない

人口推計から

《朝霞市人口の動向》

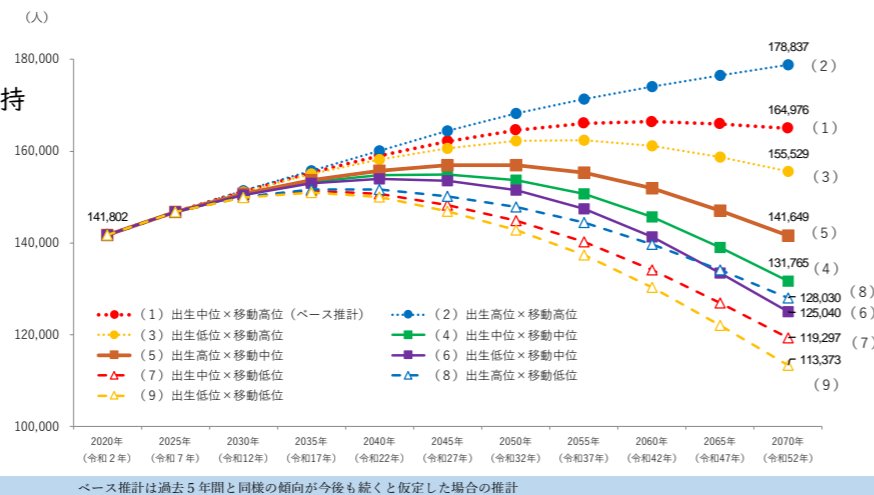
- ・本市は一貫して人口増加
- ・しかし近年は増加が鈍化する傾向
- ・少子高齢化が緩やかに進行
- ・自然増だが、自然減への突入が近い
- ・合計特殊出生率は1.25(低下傾向)
- ・25~34歳女性の出生率が低下
- ・社会増による人口増加を遂げてきた
- ・しかし近年は転出入均衡に近い
- ・転入超過が多い年代は20歳代後半

《論点》

- ① **総人口に関する論点**
ア 本市の人口はどのような傾向で推移するとみられるか
イ 出生に重きをおくか、転入促進に重きをおくか
- ② **出生に関する論点**
ア 合計特殊出生率はどのような傾向で推移するか
イ どのような政策・施策が必要か。子育て世帯支援等
- ③ **転出入に関する論点**
ア 本市の転出入はどのような傾向で推移するか
イ どのような政策・施策が必要か。若者の定住促進等

《人口シミュレーション》

- 【出生中位】合計特殊出生率は現状維持
- 【出生高位】合計特殊出生率が向上
- 【出生低位】合計特殊出生率が低下
- 【移動高位】純移動率は現状維持
- 【移動中位】緩やかに転出入均衡
- 【移動低位】比較的早期に転出入均衡



市民ワークショップから

《未来の朝霞のひと》

- ・地域の支え合いや交流がある、多様なコミュニティ、多世代参加、ひとのつながりが強い
- ・市民も市外の人も朝霞を楽しめる
- ・子どもへの教育を充実
- ・高齢者を見守り、高齢になっても働ける
- ・若者や働き世代が多い、ファミリー層が住める
- ・子どもや高齢者、外国人など誰もが住みやすい

《未来の朝霞のまち》

- ・交通網の充実、歩きやすい道が増える、夜道の安全
- ・災害に強い、災害があっても安全に過ごせる
- ・緑が多く残っている、川遊びや虫取りができる
- ・多様な公園が充実、子どもの自由な遊び場の充実
- ・誰もが利用しやすい施設がある、大型商業施設、駅前
- ・自然と住環境のバランス、自然との共存

《未来の朝霞にぎわい》

- ・買い物や食事ができる場の充実、娯楽がたくさんある、商店街の活性化
- ・市の魅力の発信、市民に情報が届く
- ・多様なイベント、市民が祭りやイベントの運営を担う